

2025年度 需要実績見込

(一社)日本塗料工業会 事務局作成

2025年度は、主要メーカーへの需要動向アンケート結果から塗料需要の実績見込を前年度比96.1% (1,174千トン)と見込む。

※前年度実績値(2024年)は製造業実態調査から得られた推計値1,223千トンを使用。

需要産業区分		予測数量 (千トン)	前年度比	前年度比算出根拠(メーカーコメント参照)
建 物		287	96.4%	首都圏など都市部を中心とした大規模再開発案件や関西万博関連等の建設需要が好調に推移した一方で、戸建リフォームの需要低迷や資材価格・人件費の高騰も響き前年を下回る見込み。
建築資材		70	94.0%	高機能建材を中心に建材ユーザー向けが堅調な面もあったが、新設住宅着工数は減少傾向で、省エネ基準適合義務化に伴う前年度の駆け込み需要の反動と材料価格の上昇で前年を下回る予想。
構造物		70	95.4%	改修・保全案件は堅調に推移したが新設物件は低調であった。高付加価値商品拡販により単価は上昇したが、需要の冷え込みは大きく、人手不足や物流コストの高騰で前年比割れとなる見込み。
船 舶		110	101.9%	造船関連の市場規模は拡大基調にあり、海運業界は好調な業績を示している。塗料出荷としても新造、修繕とも堅調に推移した。
道路車両	新車	234	100.3%	主に上期の国内自動車生産が好調で、昨年比増が期待されたが、米国の関税措置の影響も懸念され、全体としてはほぼ前年比維持となる見込みである。
	補修	33	98.1%	在庫状況は前年度並みだが人手不足の影響もあり、補修塗料の販売数量は微減となった。トラックや特殊車両の架装向け販売量増も見られたが、やや前年割れの見込み。
電気機械		27	99.8%	半導体不足は解消しており、光学機器関連向けなどでは堅調に推移した一方で、家電をはじめ空調機械、冷凍機など需要低迷により前年を下回り、全体としてはほぼ前年並みとなる。
機 械		46	100.4%	建設機械の国内生産回帰、北米向け機械の輸出好調などにより前年比増となったところもあったが、農機・工作機械類では回復しきれず、全体としては、ほぼ前年並みとなる見込みである。
金属製品		112	96.4%	粉体塗料は好調なものの、PCM分野、汎用メラミンが減少している。鋼製建具など建設投資低迷による需要減により、前年比減となる見込み。
木工製品		10	91.7%	ウッドショックの収束により、急激な価格高騰は落ち着いたものの、原材料費や物流コストの上昇による高止まりで買い控えが長期化している。住宅着工数減少の影響も受け、前年比減となる。
家庭用		22	95.1%	賃上げ機運の高まりにより個人消費環境は改善しているが、物価上昇で需要は依然弱い。ホームセンター向けの荷動きは弱く、販売数量は減少見込みである。
輸 出		47	91.8%	インド、東南アジア、東アジア向けは伸長したが、北米向け輸出は関税問題の影響により特に北米向けで減少した。海外情勢は不透明で、本年度は前年を下回る見込み。
路面標示		62	91.1%	公共事業を中心に前年並みの売り上げを維持できたところもあるが、原材料高などコスト増に伴う価格改定の影響により、全体的には低調で前年比減の見込みである。
その他		45	74.5%	国内市況の影響を受けやすい中で、原材料費、人件費等の高騰で大幅減となった。
合 計		1,174	96.1%	ほとんどの分野において低調傾向で、特に数量的に影響の大きい建築分野は厳しい状況が続いた。一部、電気機械製品等の工業関連でわずかながら回復が見られたほか、機能性塗料の伸長も期待されたが、海外の情勢不安や関税問題も影響し、前年比減となる見込みである。

2026年度 需要予測

(一社)日本塗料工業会 事務局作成

2026年度は、主要メーカーへの需要動向アンケート結果、並びに公表されている政府・民間の経済見通し及び主要需要産業の次年度景気動向予測から、前年度比101.1%（1,187千トン）と予測した。

※前年度数値（2025年度）は前項の見込推計値1,174千トンを使用。

需要産業区分	予測数量 (千トン)	前年度比	前年度比算出根拠（メーカーコメント参照）	
建 物	294	102.2%	戸建改修需要はコスト高から低調に推移するとみられるが、新設については住宅着工件数が緩やかに回復見込みで、賃上げ機運の高まりによる景気回復を期待し前年比増を予測する。	
建築資材	68	97.4%	新設住宅着工件数の回復が見込まれるほか、非住宅分野でも堅調に推移するとみられるが、資材高や不動産価格の高騰は継続し、前年比減を予想する。	
構造物	71	101.4%	公共事業予算の増額措置により、インフラ整備向けの需要は堅調に推移すると予測される。高付加価値商品拡販により単価も上昇する見通しである。	
船 舶	104	95.0%	市況としては造船は好調とみられ特に新造船は活況であるが、一部で当該年度が入渠周期の端境期とも重なり短期的に需要が低下すると見込まれた。地政学的緊張の高まりも懸念される。	
道路車両	新車	238	101.7%	国内自動車生産台数の増加が見込まれ、特に高性能塗料の需要増が新車向け塗料売上を押し上げると期待される。わずかではあるが前年比増を予測する。
	補修	34	101.7%	補修処理台数は前年並みと想定するが、架装市場の活性化により、全体需要としては対前年微増を見込む。収益改善に向けた取り組みも活発化させていく。
電気機械	28	101.7%	半導体、電子部品の需要は増加傾向で、配電盤向けも好調が継続すると期待される。粉体塗料は全体的に堅調な推移が見込まれ、前年比増を予測する。	
機 械	46	100.3%	建設機械の需要が海外で回復の兆しはあるが、国内は横ばい見込み。一部工作機械メーカー向けの需要増も期待されるが、産業分野により差が大きく前年並みの水準を予測する。	
金属製品	119	106.5%	溶剤形塗料は低調と予測されるが、粉体塗料の旺盛な需要を背景に数量は前年を上回るとみられる。特に鋼製家具市場などが堅調に推移すると想定される。	
木工製品	10	97.1%	高級物件やブランド家具が堅調な一方、一般耐久消費財向けの冷え込みによる二極化が鮮明になりつつある。資材値上げによる買い控えも影響し、来期は前年比減を予測する。	
家庭用	23	105.0%	賃上げ機運の高まりで、個人消費環境の改善やホームセンター需要の増加を背景に拡大が見込まれる。住宅リフォームやDIY需要の底堅さが販売を下支えすると考えられる。	
輸 出	47	99.1%	引き続き海外情勢は不透明である。アジア圏では堅調に推移することも期待されるが、日系自動車メーカー向けの不調もあり、販売数量は前年を若干下回ると予測する。	
路面標示	62	100.8%	道路維持・補修用の需要は安定的に推移する見込みである。公共事業を中心に営業活動を行い販売増を目指す。全体的にはほぼ前年比維持を予測する。	
その他	44	99.0%	環境対応、問題解決型の商品投入で新たな市場開拓をめざす。一部業界で需要の停滞が続き、全体的には対前年度比でやや減少を見込む。	
合 計	1,187	101.1%	全体として緩やかな回復基調が続く見通し。建物や車両用のほか、電気機械・機械・金属製品分野を中心にわずかではあるが需要増となることが期待される。ただし、海外情勢不安は大きく、原材料・ナフサ価格、物流問題の懸念もあり、予断を許さない状況である。	